

那珂市議会全員協議会記録

開催日時 令和8年4月28日（火）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席者	議長 大和田和男	議員 榊原 一和
	議員 桑澤 直亨	議員 原田 悠嗣
	議員 鈴木 明子	議員 渡邊 勝巳
	議員 寺門 勲	議員 小宅 清史
	議員 富山 豪	議員 花島 進
	議員 寺門 厚	議員 木野 広宣
	議員 萩谷 俊行	議員 君嶋 寿男
	議員 遠藤 実	議員 福田耕四郎
欠席者	副議長 小池 正夫	議員 笹島 猛

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 横山 明子 次長 海野 直人
次長補佐 岡本奈織美

会議事件説明のため出席した者の職氏名（総括補佐以上及び発言者）

市長 先崎 光	副市長 玉川 明
教育長 大縄 久雄	総務部長 篠原 広明
総務課長 石井 宇史	総務課長補佐 和田 政男
産業部長 大内 正輝	道の駅整備課長 岡本 哲也
副参事兼課長補佐 橋本 芳彦	

会議に付した事件

（１）議会運営委員会委員長報告

- ・常任委員会等の映像配信について
- ・議員と語ろう会について
- ・議員勉強会について
- ・議長よりの諮問について
- ・令和8年第1回定例会における議事進行について

…委員長報告のとおり

（２）「道の駅」のレジ通過者数について

…執行部より説明あり

（３）住民投票条例制定の直接請求と今後のスケジュールについて

…執行部より説明あり

（４）その他

・那珂市議会所属表について

…事務局より説明あり

議事の経過概要（出席者の発言は以下のとおり）

開会（午前10時01分）

事務局長 それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

ただいまより全員協議会を開会いたします。

初めに、議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 皆さん、おはようございます。

本日は、定例会閉会中の中、全員協議会にご参集賜りまして、誠にありがとうございます。議員各位におかれましては、4月ですので総会など各団体のいろいろな集まりに出席されて、ご活躍されていることかと思います。私も関東議長会とか、この間行ってきただけですけども、県の議長会などで那珂市はこんなに議論闊達だぞというのをPRしている状況でございます。

また、今日は局長が戻ってきたというところで、けがもありましたので、お手柔らかにお願いしたいと思っております。

それでは、早速始めさせていただきますと思います。

ご連絡いたします。会議は公開しており、傍聴可能といたします。

また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送いたします。会議内での発言は、必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、ご配慮をお願いいたします。

ただいまの出席議員は16名であります。欠席議員は、笹島議員、小池議員の2名であります。定足数に達しておりますので、これより全員協議会を開会いたします。

会議事件説明のため、市長、副市長、教育長の出席を求めています。職務のため、議会事務局職員が出席をしております。

議事に先立ちまして、先崎市長が出席をしておりますので、ご挨拶をお願いいたします。

市長 皆様、おはようございます。

本日の全員協議会の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、平素より市政運営に特段のご配慮を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、4月9日から22日までの14日間、静峰ふるさと公園において、本市の春を彩る八重桜まつりが開催されました。19日のオープニングイベントに際しましては、大和田市議会議長をはじめ、多数の議員各位にご列席をいただき、大変ありがとうございました。当日は、友好都市である横手市長にもお越しいただき、八重桜も見頃を迎える中、親子連れなどの多くの来園者で盛り上がりを見せていたところでございます。静峰ふるさと公園は、四季を通じた魅力ある公園をコンセプトにしておりますが、引き続き、地

域資源を生かした四季折々のイベントを開催しながら、賑わいのあるまちづくりに寄与してまいります。

それでは、本日の全員協議会でございますが、道の駅のレジ通過者数について、住民投票条例制定の直接請求と今後のスケジュールについてのご説明をさせていただきます。

ご協議のほどよろしくお願い申し上げまして、挨拶といたします。

議長 ありがとうございます。

暫時休憩をいたします。

休憩（午前10時05分）

再開（午前10時05分）

議長 再開をいたします。

それでは、次第に従いまして議事に入ります。

議会運営委員会、君嶋委員長より報告をお願いいたします。

君嶋議員 皆さん、おはようございます。

議会運営委員会の開催及び経過につきましてご報告いたします。

4月16日、議会運営委員会を開催いたしました。会議事件は、常任委員会等の映像配信について、議員と語ろう会について、議員勉強会について、議長からの諮問について、令和8年第1回定例会討論時における議事進行についてであります。

まず、常任委員会等の映像配信についてになります。令和7年第3回定例会において、委員会等の映像配信を求める陳情の提出があり、趣旨採択となっております。今年度、議場及び全員協議会室の音響設備のシステム改修があり、9月以降は現在のユーチューブの配信から、新たな映像配信ができるよう計画をしております。しかしながら、常任委員会の映像配信については慎重に実施する必要があるという意見があり、きちんとした運営づくりをしなければならないという意見が出されました。今後も委員会等の映像配信の運用について協議を行うことに決定しました。

次に、議員と語ろう会についてです。昨年度は常任委員会単位でテーマを設けて実施しました。参加者からも高評価であることから、今年度につきましても常任委員会単位で年2回以上行うことに決定しました。なお、原子力安全対策常任委員会につきましては、独自で市民の皆様の声を聴く会等を開催することから、議員と語ろう会からは除外します。

次に、議員勉強会についてです。昨年制定しましたハラスメント防止条例の第8条に、議長はハラスメントの防止を図るため、議員に対し必要な研修等を実施しなければならないとありますので、ハラスメント研修と、今年度から政務活動費が増額になり、手引も改定になっているため、こちらの勉強会を実施していくことで決定しました。日程が決定次第ラインワークスでお知らせしますので、よろしくお願いいたします。

次に、議長からの諮問についてです。議長より、議会のBCPの策定、大学との連携、

語ろう会の充実、昨年度ハラスメント防止条例の運用について諮問をいただきました。この件につきましては、他市町村の取組なども参考にしながら、今年協議していくことに決定しました。

最後になりますが、令和8年第1回定例会討論時における議事進行についてですが、討論等の中でほかの議員の名前を出すこと自体は誹謗中傷とは言えない。ただ、今回それを受けたほう、言われたほうが誹謗中傷じゃないかというふうに感じたということであるので、桑澤議員の個人名を上げた部分の発言と、遠藤議員の誹謗中傷ではないかという発言に関して、内容は変わらないように、そこに関する文言を削除し、関係各位にお示しし、議長権限で議事録の変更を行います。

また、道の駅のレジ通過者数の内容を精査するため、本日執行部に説明していただくことに決定しました。

なお、今後、個人名を出す発言については、注意するようお願いをいたします。

以上、報告いたします。

議長 委員長報告が終わりました。

何か確認したいことはございますか。

鈴木議員 先ほど個人名を出すことは誹謗中傷に当たらないというお話だったと思うんですが、でも気をつけてくださいというのは、どのように気をつけるというか、どんなお話があったんでしょうか。

君嶋議員 いろんな場面の中には、名前を上げてしまったことによって感情の受ける場合も出てくるんじゃないかという感じもありますし、できるだけ個人名を上げることは今後は注意してくださいということのほう、意見が出たものですから、それで、なるべくは皆さん注意していただければということになります。

以上です。

渡邊議員 映像配信、常任委員会等の映像配信についてというのがあったんですけれども、議運について、これを議員だけでもいいですから、限定公開というのはできないかどうかお願いしたいんですけれども。

君嶋議員 これについては、今後議運のほうでも検討させていただきます。ただ、場所を、全協室は整備されますけれども、議運を今行っている委員会室では映像配信は整備されないものですから、そのときには場所の選定も決めていかなきゃならないということで、今後検討はさせていただきます。

以上です。

渡邊議員 ありがとうございます。どうしても、議運で関わることというのは、直接、我々、議員活動に大きく影響しますので、ここはぜひ配信をお願いしたいと。

議員だけ限定というのは可能ですので、可能ですよね、その人だけURL教えればいいだけばいいだけです。それをお願いしたいということと、場所はここを使っていた

できればと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

君嶋議員 今後の部分、議運のほうで検討させていただきます。

花島議員 議員の発言ですが、僕は名前出すのは問題ないと思うんですが、その内容ですよ。

例えば、誹謗中傷とか、そういうこととか、あるいは何かをあおるとか、感覚的な、事実関係はオーケー。私もそうだろうとは思っても、そういう言い方しないんですよ。それはお互いに気をつけたらいいと思います。

それから、配信の件ですが、私は配信に前提賛成です。ただ、小さいほうの部屋で配信できないというのが全然分からない。簡単にできるはずだと思うんです。適当に機材を持ち込めば。

以上です。

君嶋議員 今議運を行っている隣の部屋で映像配信するとなると、工事を入れて整備をしないといけない。今回、9月に、先ほど説明しましたように、ここの改修工事がありますけれども、そちらは入っていませんので、やるとなるとこちらを使うという形にはなってくるかと思います。

花島議員 この部屋でやるのならやるでいいんですが、必ずしもそういうときばかりじゃないんですよ。こちら全員協議会で人がいるときに、ぱっと向こうでやるとか。それは配信しないというのも一つの手ですけども、ただ、何か工事しなきゃ配信できないというのは、僕は分からないんです。Wi-Fiが例えばつながらないとか、それからケーブルが届かないとか、そういうことでない限り簡単に配信できるんです。だから、もうちょっと考えていただきたいと思います。

以上です。

君嶋議員 今後検討させていただきます。

鈴木議員 勉強会についてなんですけれども、今まで教えていただいてそれで終わりということがあったと思うんですけれども、それだとやっぱり自分事としてなかなか感じられないので、やはり意見交換できたりとか、その後議論できたりとかということもぜひ、それは要望なんですけれども、そういったことで自分自身に落とし込んでいけると思うので、そちらお願いしたいことと、あと、SNSの使い方というものもやはり、去年もやりましたけれども、再度、やはりやっていただければなという、要望になります、こちら。

君嶋議員 ありがとうございます。今後議運のほうでも検討させていただきます。

議長 この件につきましては、委員長の報告のとおり決定をいたします。よろしくお願いいたします。

暫時休憩いたします。

執行部のほうお願いいたします。

休憩（午前10時14分）

再開（午前10時20分）

議長 それでは、再開をいたします。

続きまして、先ほど議会運営委員会委員長より報告があったとおり、レジ通過者数の内容の精査ということで議会より説明を要望いたしました。道の駅のレジ通過者数について説明をお願いする前に、今回議事を整理したところ、前回の定例会の最終日に議論が紛糾をいたしましたこのレジ通過者数なんですけれども、遠藤議員の討論のほうから様々な議論が紛糾したというところから、遠藤議員より道の駅レジ通過者数の考え方の発言の許可を求められておりますので、これを許すことといたしました。

渡邊議員 それちょっと変じゃないですか。そもそも今回の議案というか、この議事の進行というのは議運のほうで決まったというのはレジ通過者数の説明を執行部から求めるという話ですよ。それ、執行部の話を聞いてからだっていいじゃないですか。執行部の説明を本来は求めているのが議会からの要望ですよ。そこへ、要望したものを、まず話を聞いて、それから意見があるんだったら言うというのが普通の流れと違うんですか、違いますか。今回のやつというのは、繰り返して申し訳ないんですけれども、いろいろと、前回いろんな問題があったんで、議運のほうでどうしようかと議論した結果、執行部のほうからレジ通過者について説明を求めるという結論が出て、要請をして、この会議が始まっているのかなと思うんです。となれば、まず執行部の話を聞くのが先じゃないんですか。その上で、各議員が意見を申すのだったら構わないと思うんですよ。趣旨がずれていると思うんですけれども。

議長 議運のほうでも議論がありましたとおりなんですけれども。

（複数の発言あり）

渡邊議員 そうしないと、そもそもの趣旨の説明が分からないだけで一議員の話を聞くのはちょっと、違った認識になる可能性があるんです。まず本来の事実関係を執行部から求めるというのが前提なんですから、それをお願いした上で各議員が意見を言うのが今までの流れであり、本来の筋じゃないかと思うんですけれども、どうでしょうか。

花島議員 遠藤議員の話を先に入れるというのは、何か理由があるんでしょうか。

議長 特に理由と言われるとあれなんですけれども、前回の本会議のときに討論から始まって、執行部のほうも発言がもちろんありました。だけれども、実は3者になってしまうんですけれども、その案について桑澤議員もこういう案じゃないかと賛成討論もあったというので、非常に精査できないというところがありまして、その反対討論の中から、まずは遠藤議員の話を聞いて、そしてそこを、話を聞いてというか、多分討論の中身があったと思うんです。その討論の中身を多分今日も説明すると思うんですけれども。それを多分執行部に話……

（複数の発言あり）

桑澤議員 私、こういう流れになると聞いていないんですけれども、先ほど討論からというよ

うなお話、3者というお話がありましたから、本来であれば、遠藤議員が今回前段で説明するのであれば、私にもその話があってしかるべきだと思いますし、ないのであって、一方的にまず主張を述べられるというのはおかしいんじゃないかなと思います。順序としておかしいんじゃないかなと。渡邊議員のお話と、合っているかと思います。

花島議員 前回、本会議の議論を聞いていて、執行部のほうにも混乱があったと思うんです。要するに、入場者数の見積方法を最初に言っていた説明から変更しているんです。それを明確に認識していないのか言わないのか。で、議員の間にも混乱があったと思うんです。だから、今日の説明はそれが中心かなと思うんですけれども、議会運営委員会のほうでは執行部に何を説明してほしいと言っているんでしょうか。その内容次第で、例えば説明を求めた趣旨が遠藤議員のこれからしたいと思っている、先にしたいと思っている発言と関係があるんだったら先にしてもいいけれども、一般的な話、さっきの認識違いの話だけだったら執行部の話を先に聞くほうが自然だと思うんです。それで、執行部の説明が全然足りないんだったら、それは後で言えればいいかなと思うんですが、違うんでしょうか。

議長 分かりました。

暫時休憩します。

休憩（午前10時27分）

再開（午前10時28分）

議長 再開いたします。

そのような意見が出ましたので、先に執行部よりレジ通過者数の内容の精査ということで説明をお願いいたします。

道の駅整備課長 道の駅整備課長の岡本でございます。ほか1名が出席しております。よろしく申し上げます。

それでは、着座にてご明いたします。

それでは、全員協議会資料1ページをご覧ください。

本日ご説明いたします内容は、道の駅のレジ通過者数の考えについて、これまでも基本計画策定時、実施計画策定時にご説明してまいりましたが、再度ご説明するものでございます。

2ページをご覧ください。

レジ通過者数の概要ですが、これまでも道の駅のレジ通過者数を予測するに当たり、標準的な手法は確立されていない状況であるにご説明してまいりましたが。理由といたしましては、道の駅は立地条件や施設規模、導入機能、取扱商品、周辺人口、観光条件などのいろいろな条件によって利用実態が異なっております。

また、実態調査を実施している報告書も見られますが、道の駅の施設規模やステージごとの調査が実施されているものは見当たらない状況でございます。

そのような中、本市といたしましては県内の先行事例やコンサルとの対話の結果、緩やかな相関関係にある計画交通量からのレジ通過者数の予測を採用しております。

3 ページをご覧ください。

令和4年度に策定いたしました基本計画では、令和3年に実施しました交通量調査を計画交通量とし、小型車、小型貨物、大型車、大型バス、それぞれの立ち寄り率と乗車率に平日、休日の日数を乗じて利用者数を算出し、レジ通過者数としての予測をしております。採用している係数につきましては、立ち寄り率が東日本高速道路の設計要領、乗車率につきましては、交通センサス実態調査結果に基づいております。

また、立ち寄り率につきましては、一般道路の休憩施設計画の手引き、道路計画設計要領において、休憩施設間相互の最大間隔は25キロメートル以下とすることが望ましいとなっておりますので、25キロメートル以内に類似施設を設置する場合、競合する可能性があることから、立ち寄り率の低減補正を行っております。

また、実施設計では営業時間の拡大、道の駅が整備されたことによる交通量の増加、建築デザインの魅力向上をレジ通過者数の増加要因と捉え、年間のレジ通過者数を95万人と予測しているところでございます。

4 ページをご覧ください。

3 ページでご説明いたしましたレジ通過者数の予測式を採用するに当たり、妥当性の検証を行っております。本市が採用しましたレジ通過予測式に道路環境や立地環境が近しく、計画交通量が示されている県内道の駅を選定し、検証を行っております。提供いただいている資料につきましては取扱注意ということで受けておりますので数字は読み上げませんけれども、左側から事例市のレジ通過予測値、本市算出式によるレジ通過予測値、レジ通過者の実績値、売上高の実績値となっております。

いずれも、本市算出式によるレジ通過予測値は、事例市のレジ通過実績を下回る結果となっており、安全側で予測できております。

また、事例市のレジ通過予測値と本市算出式によるレジ通過予測値を比較した場合、レジ通過実績値に対し、本市採用の算出式のほうが近似値となっておりますので、より実態に即した需要予測が行えるものと判断しております。

5 ページをご覧ください。

こちらの資料では、県内の近隣に整備された道の駅の商圈規模の大きさを示しております。グラフをご覧くださいても分かるように、本市の道の駅は20分、30分の商圈規模が他の道の駅よりも大きく、インターチェンジ近接という立地条件の優位性も考慮すれば、日常利用と広域訪来者の双方を取り込める立地条件となっております。

以上のことから、採用している算出式は駐車場必要台数を算出する際に用いる指標ではございますけれども、基本計画、基本設計時でお示ししました利用者数はレジ通過者数であり、その妥当性についても検証できているものと捉えております。

また、冒頭でもお話したとおり、道の駅のレジ通過者数の予測につきましては標準的な手法は確立されておらず、各自治体が試行錯誤しながら算出しているものと思います。

そのような中、我々が採用したレジ通過者数の予測方法は、実績値に基づき検証を行って採用しているものですので、一定の信憑性は確保できているものと考えております。

説明は以上となります。よろしくお願いします。

議長 説明が終わりました。

質問ありますか。ご意見も。

小宅議員 4ページに、黒塗りの下のところに、当日は資料公表と書いてあるんですが、これはいつ公表されますか。

(「今のデータだろ」と呼ぶ声あり)

小宅議員 俺の黒塗りなんですけれども。

(「新しい」と呼ぶ声あり)

小宅議員 ごめんなさい。

議長 よろしいでしょうか。

ほかにございますか。

原田議員 ご説明ありがとうございます。

4ページのほうに実績値と本市算出式による予測値、基本計画のときに算出された式ですよね。これの数字が近似値だから信憑性があるということだったんですけれども、この3つ、3か所以外の道の駅についてもこの実績値と本市算出式の予測値というのはやられているんですか。

道の駅整備課長 まず、先ほどご説明でもしましたけれども、まずは環境というものが似ている、近いところで算出の方が妥当性があると考えております。なぜかと言いますと、やはり地域活性化センターの報告書とかも読んでみますと、雪国とかというところは冬季の集客数が課題であったりとか、そういったアンケート調査も出ております。そういったところで、やはり私たちとしましては県内の道の駅で、なおかつ計画交通量というものを示している自治体の道の駅を採用してやっております。

ちなみにですけれども、計画交通量、このとき、これは採用するときに私たちが妥当性を検証した結果でしたので、常総市がやはり計画交通量を示して需要予測を行っております。常総市に関しましても、当時まだ開業していなかったもので、平成31年だったかと思うんですけれども、基本計画を策定していたのが。そのときのものを、交通計画量を今代入してやってみますと、やはり年間レジ通過者数は私たちの算出式を、実績値は超えているという結果に、大幅に超えていますけれども、常総市は。ということになっております。

原田議員 そうすると、信憑性があるという先ほどのお話だったんですけれども、統計学的に信憑性があるということで理解できるということですか。

道の駅整備課長 まず、道の駅の需要予測というものをまずは公表しているところというのが少ないのかなと思います。鴻巣市なんか最近できている道の駅の一つなのかなと思いますけれども、なかなか需要予測というものは公表もしておりません。そういった中で、統計学上、これが信憑性があるのかといったところに関しましては、そこは必ずしも信憑性があるとは言いきれませんが、ただ、先ほどもご説明の中で各自治体がやはり試行錯誤しながら、いろいろなやり方で需要予測をしているというところですので、私たちはそういった中で実績、実際にこのコンサルを選定するに当たっても、やはり実績というところを大きく見て採用しておりますので、そういったところはやはりコンサルと対話をしていきながら、その自治体に合ったというか、妥当性がある算出方法を選定して、自治体がやっているものだと考えております。

原田議員 ありがとうございます。

データがそもそも少ないと言いますか、公表されているものが少ないと思いますので、おっしゃるとおり、やっぱり統計学的にはデータの量的にどうしても信憑性があると、学問的に言うというのは難しいのかなというのは僕も同意見です。

周りの環境とかによってもやっぱり変わるというところで、5ページで豊富な商圈人口により高い集客ポテンシャルを有しているというところがあると思うんですが、この辺、少なくとも常陸太田市、筑西市、常陸大宮市の商圈人口と、あと実績値のほうを見比べると相関関係は弱いのかなというふうに思うんです。商圈人口が多いから単純に道の駅に来る人が増えると考えるという考え方もあるでしょうし、人口が多いからこそ、ほかにお店がいっぱいあると。だから、競合する店舗とかがたくさんあるため、そっちに分散されて、この商圈人口の中からは道の駅には来ないといったことも私は予想できるかなと、この数値を見ても。でも、ちょっとデータが少ないので何とも言えないところなんですけれども、この辺、もうちょっと精査することってできたりするんですか。商圈人口と実績値、ほかの。すみません。

道の駅整備課長 2ページをご覧いただきたいと思います。

2ページでレジ通過者数の予測で勘案する主要要素というところで、まず前面道路の計画交通量、続いて商圈人口に基づく潜在需要、施設規模、機能、商品内容というところがございます。これ、私たち前面交通量を計画交通量として今回算出しているわけですが、やはり原田議員がおっしゃるとおり、商圈人口というところから算出している自治体もございます。結局、この5ページにあります商圈人口の比較というものはあくまでも参考として今回提出させていただいているものですので、これを加味して算出しているわけではございません。ですので、交通条件で出すやり方、商圈人口に基づいて出すやり方、施設条件というのはやはり既存の道の駅に対して、これだけ売上げがあるからうちの道の駅はこれだけの規模でやるのでこれだけ需要があるでしょうみたいな、ちょっと、結構単純なやり方でやっているところもあります。なので、その3つのやり

方の中でどれが実態に即したレジ通過者数となるのかというところがまず私たちが検討したところでございます。ですので、商圈、今回この5ページに載っている商圈を何かしら加味して需要予測をしているわけではございません。

以上でございます。

原田議員 ありがとうございます。

そうしますと、この商圈人口はあまり関係ないということですよ、レジ通過者数とかには。そうすると、これ実施設計に載っているんでしたっけ。載っているとしたら、これやっぱり誤解を招くというか、特にレジ通過者数と参考になる数字でないのであれば、これだけ見ると那珂市だけやけに高いかなというふうに思いますので、わざわざ載せる必要はないのかなというふうに思います。というのは、これ意見なんですけれども、もう一個ちょっと質問したいことがありまして、以前の全員協議会的时候にもお尋ねしたんですけれども、基本計画から23.1%増加しているところの一つの要因として営業時間の拡大があると思います。この営業時間の拡大って主には早朝モーニングかなというふうに思うんですけれども、夜もそうなんですけれども、ただ早朝モーニングの分もあると思うんです。その早朝モーニングの費用対効果、早朝からやるとなったら、それより早い時間から従業員雇って下準備とかやってもらわないといけないですし、その人件費とか、そういったことも加味しての、費用対効果を精査した上でプラスになるから早朝モーニングをやるということなのか、まだそこが精査できていないのであれば、この23.1%増というのも見直さないといけないと思うんですけれども、その辺の進み具合、いかがかなと。

道の駅整備課長 基本設計の中でお示ししています増加要因でございますけれども、そちらにつきましては観光物産、フードホール、あとはカフェ、ベーカリー、製造直売というところで営業時間の拡大をしております。そちらの分を増加要因の見込みとしておりまして、さらにそのシフト、従業員のシフトとかというところもしっかりそこは確認して需要予測をしているところでございます。

小宅議員 本当にこういう資料を取得する、データを取るというのは、他市のを持ってくるというのは大変だったと思います。なかなか、うちのはこうですから見てくださいますか、うちはこうやっていますよと言ってくれる市もなかなかない中、近隣の市町村、筑西市とか、そういったところがこうやって出してくれたというのは、非常に執行部の努力を評価するところだと私は思います。

それで、執行部も冒頭から申していますように、客観性の高い手法による予測ということで、執行部が出しているものに対して、これは間違っているということであれば、どこか大学のマーケティングの先生でも連れてきて、全く違う手法でやってみるとこうなりますということでも示してもらわないと、これがおかしいとか間違っているとかという根拠すらないんです。これは、非常に、私は、執行部はここまで積み上げてきたとい

うのは評価すべき点でありますし、それに対して、前回は95万人がどうのこうの、それがレジ通過者なのか総入場者数なのかみたいな話にもなっていますが、結局客観的に出してきた、あくまでも予測値ですので、それについて、そうじゃない、ああじゃないというのであれば、全く違う方向から根拠を持ってこないとなら何の説得力もないと思います。

ですので、私はこの執行部が出してきた数字というのは客観的で信じていい資料だというふうに思います。

以上です。

花島議員 まず質問ですが、前に聞いているかもしれないんですが、3ページの基本計画時の利用者数の予測ですが、これ①、②、③と④を掛けてとなっているんですけども、②と③は幅が記入されていますよね。これは、例えばどういうふうに算定したのか、数値的に。それを、今示してもらわなくてもいいんですけども、示せますか。

道の駅整備課長 まず、立ち寄り率ですけども、立ち寄り率は普通貨物、大型バス、小型車で立ち寄り率が違ってまいります。普通貨物に関しましては0.1、大型バスについては0.25、小型車については0.175というふうに設計要領のほうではなっております。そちらについて、私どもは、我々の算出方法としましては、常陸太田市、常陸大宮市、あとかつら、あと日立おさかなセンター、そちらが25キロ以内にある道の駅ということで、その距離を25分の、常陸太田市であれば10キロということで補正を、その方面、今回断面として4断面で見えておりますので、その方面ごとに補正をかけて出しているところで、ちょっと立ち寄り率につきましては、ちょっと細かい数字になっております。

乗車率につきましても、やはり普通貨物、大型バス、小型車とそれぞれ乗車率が変わっているところで、こういった幅ができていくような書き方になっております。

以上でございます。

花島議員 車種ごとに分けてやるというのは当たり前というか、いいと思いますが、数字がどこかに、何か資料をもらいましたっけ、車種ごとに分けてあるやつ。

道の駅整備課長 こちらの詳細な資料につきましてはご提供しておりません。

花島議員 じゃ、その詳細な資料を、表になりますよね、表に。車種ごとに係数があって、数字があつてと。それを最終的に掛け算してトータルのパーなり平均値が出ると思うので、今じゃなくていいんですけども、ぜひ欲しいんで、提出を検討してください。

あと、意見なんですけれども、はっきり言って分からないわけですよ。何が分からないかというのは、車の通過台数というのは、まず今イランでちょっと石油が大変なことになっているから、下手すると燃料費が2倍ぐらいになったっておかしくないんです。その先で交通量が減ったりすると分からないということもあります。それは非常に大きなことです。あと、どういう経営になるのかとか、それから藤森氏の建築がどれだけ受けるのかとか、それからどんな品ぞろえするかとか、それみんな分からない要素です。正直言

って、私、藤森氏の建築はまるきり評価しない。だけれども、何人かの人が評価しているから、私1人の意見でどうこう言うわけじゃないです。

だから、結果として、客観的というけれども、客観なんかないんですよ。ただ、分からないなりに基礎的なデータを今まで市が説明してくれたような数字かなと思っていきます。だから、あとはやってみるかどうかという判断。公的なものだと、大概完全に見通しがたってから、少なくともそのつもりでやる人が多いんだけど、でも、事業そのものって必ずしもそうじゃないんです。安穩の天草を踏みながらやっていくということもあるし、これからの努力次第で分からないし。例えば、常陸大宮市の道の駅なんか最初物すごく人が集まったらしいんだけど、私が行ったあるときにはがらがらでした。でも、その後、経営努力だか何だか分かりませんが、持ち直したみたいです。やってみなきゃ分からない部分があるんで、あとは議員にしてもそうだけれども、市民にしても、その辺は判断すると思います。

だから、皆さんにも言っていることなんだけれども、完全に赤字にならないことを見越さなきゃ認めないねという立場もあるだろうけれども、私はそうは思っていないです。

以上です。

議長 ほか。

桑澤議員 ありがとうございます。

レジ通過者というのが基本的な収支計画を立てる上で最も大事な、基礎的な数字だとは思っております。買物しなければ、収支計画ですから、買物してもらう人の数をまず大前提として収支計画を立てるわけですので、総来場者数とかというのははっきり言って何人来たってあまり関係ない、収支計画上は。収支計画上はあまり関係ないです。200万人だろうが300万人だろうが100万人だろうが別に、それは予測、未来の数字なんで分からない。なので、計画を立てる上で大事なのはレジ通過者だと思っています。その上で、レジ通過者、今出したこの式においても、花島議員もおっしゃったとおり確定的なものではないと思います、もちろん。でも、使える、全国的に一律的な手法がない中で、使えるものを使って収支計画を立てるしかないのだからこれを使っているというだけなので、正しいんじゃないかと思います、この出した数字は。

改めて確認させていただきます。

95万人がレジ通過者だとしたら、総来場者数はこういった形で見込まれるのか。見込まれるような係数、使えるものがあるのかどうか、ちょっと最終的に確認させていただきたいです。

道の駅整備課長 実際のレジ通過者数に対してどれだけの総来場者数があるのかというところで、一般質問でもお答えさせていただいておりますけれども、そのときに1.4倍という数字のお示しをしたところでございます。そちらの理由としましては、地域活性化センターがアンケート調査を実際行っております。その際に、地域活性化センターのアンケー

トで付帯設備も含めた来場者数というところのアンケート調査を行っております。それに対して、平均値としまして35万5,186人というアンケート結果がございました。続いて、それに対して売上げは幾らですかということで、その平均値が2億3,900万円ということとございました。

そこで、ここで船井総研のほうの考え方なんですけれども、客単価が1人当たり1,000円ということで売上高の平均の2億3,900万円を割り返して、その数をアンケートで取っている付帯設備も含んだ利用者数というところを割り返して1.49倍という数字が出ているということとございます。

実際に公表値を使っているかどうかというところで、TTCという、常総市の運営をしているのがTTCでございます。あとは、TTCは鳴門市とか、そういった道の駅もやっているところで、実際に1.49という数字にはなるんですけれども、TTCのほうで1.4という数字で現在公表しているということで、私たちもその1.4倍というところを採用して、今回一般質問の中でご答弁を差し上げたところでございます。

以上でございます。

桑澤議員 そうすると、私の一般質問させていただいたとおりのご回答だと思います。95万人がレジ通過者として予測しておって、あえて総来場者数をはかるものがあるとするならば1.4倍、となれば133万人だということだと思います。1.49倍になれば140万人とかと数字になるかと思いますが、正直言って、大切なことはレジ通過者イコール総来場者数じゃないですよということだと思うんです。そこをイコールにしてしまうとおかしな話になってしまうので、そこをはっきりさせたかったわけです。なので、今はっきりさせていただいたと思います。あくまでもレジ通過者95万人と、総来場者数は別概念であるということによろしいんですよ。

道の駅整備課長 そのとおりでございます。

桑澤議員 ありがとうございます。

はっきりそこが違うと、別の概念でやっているということが確認できたので、そこについてのはっきりしたのかなと思いますので、以上でございます。

渡邊議員 ちょっと繰り返して申し訳ないんですが、確認したいと思うんですけれども、今回、レジ通過者を予測する数値というのは決まった算定式はないという解釈でよろしいんですよ。

道の駅整備課長 標準的な手法がないということです。なので、これでやりなさいとか、国交省が示しているわけでもございませんし、法律上あるわけでもございません。

渡邊議員 となりますと、日本中にある道の駅というのは各々が自分たちの考えによって類似したものを使って、例えば今回出ている前面道路というのは多分高速道路のサービスエリアの駐車場を設定するために出している立ち寄り係数という算定式を基に算出しているということですよ。

道の駅整備課長 そのとおりでございます。

渡邊議員 要は、決まったものがないので、各々の自治体で行われる道の駅については自分たちの実績に合うような形、または、言い方が悪いかもしれないけれども、自分たちの都合のいい部分があるのかもしれないですけども、なるべく不利にならないようなところと、なるべく実際の数字と解離しないような、現実に近いところを持っていくとして皆さんがある程度の数字をつくっていくのかな。

今回、那珂市においても、今の立ち寄り率についても幅がある、あと乗車率についても幅がある。それを近隣の道の駅、もしくは類似する道の駅、同規模の道の駅を参考にしながら近似値に近づくような形で算出していったということでもいいんですよね、よろしいんですかね。

道の駅整備課長 近づけていくというわけではなく、採用した算出式で検証を行った結果、やはり実績値よりも下回った結果が出ておりますので、安全側で見られているという判断をしております。

渡邊議員 分かりました。ということは、やはり決して無謀な数字でもないでしょうし、実情に合った、ほかの道の駅を参考にしながら算出した数字であって、なおかつほかのところと比べても安全側に出た数字で今回のレジ通過者を設定しているよと。そのレジ通過者で出た数字から結局収支計画のほうで算出されているという形の今回の計画であったということを確認させていただいたんですが、これは間違いはないですかね。

道の駅整備課長 おっしゃるとおりでございます。

渡邊議員 分かりました。私も桑澤議員と同じ考えなんですけれども、そもそも道の駅が今後安定経営をしていくのかどうかというのを考えたときというのは、やはり大事なのはレジ通過者、それが1人幾らの単価を使ってくれるからこのぐらいの収益が上がるんですよということであって、変な話、先ほど桑澤議員もおっしゃいましたけれども、ここが100万人来ようが1,000万人来ようが、その方はお金使ってくれないので、そこが問題あるのか。ただ、問題になるのは、いっぱいくれば駐車場が狭くなるよねとかという判断は出てくるかもしれないんですけども、これを収支する上での問題点は、あくまでも総来場者数ではなくてレジ通過者であると。そのレジ通過者がいろいろな手法、係数値をどう取るかという形になると思うんですけども、それを考えた上で出てきた数字が95万人、その95万人というのは近隣のもの、もしくは同規模のものと比較した場合は、それよりも予測値として低めに出ているから安全側なんだよということが確認できました。ありがとうございます。

原田議員 ちょっと幾つかまた確認させていただきたいんですけども、実績値を確認できた道の駅というのはこの3つしかなかったということですか。ほかのところはやっぱり教えてもらえないという感じなんですか。

道の駅整備課長 当初、令和2年のときに視察を行った県内の道の駅は、さとみの道の駅とか

を抜きまして、そういったところは視察をしておりまして、そこはやはり教えてはいただいております、視察した際には。ただ、実績値が分かるところで調べているのではなく、先ほどからご説明しておりますけれども、計画交通量を示している道の駅を採用してやっております。なので、ほかの市町村の計画交通量が分からないので、それを勝手にやるわけにはいけないので、そういった示しているところの県内の道の駅でやっているということでございます。

原田議員 ありがとうございます。

4 ページの本市算出式による予測値があると思うんですけれども、これって本市でやっていた計算式と同じで予測されたのかなと思うんですけれども、那珂市との違いは、那珂市は23.1%増加させていると思うんですけれども、この3つの常陸太田市、常陸大宮市、筑西市の本市算出式による予測値は23.1%増加させているんですか。

道の駅整備課長 要因がまず違うものもありますので全ての市町村がやっているわけではございませんけれども、資料提供というものが取扱注意ですのであまりお話はできませんけれども、筑西市に関しては、やはり我々が用いていました道の駅ができてから前面の交通量が増えるといったような考え方で、道の駅を目的地として来てくれる方でやはり10%の上乗せというか、ことはやっております。

原田議員 分かりました。ありがとうございます。

23.1%の増加に関しても、その根拠、以前ちょっと示していただいたかなと思うんですけれども、紙ベースではもらっていなかったかなと思いますので、さっき花島議員が表で欲しいということだったと思うんですけれども、僕も23.1%のほう、頂きたいなと思うので、よければお願いします。

どうしても、中高の数学教員の免許を持っているもので、ここがどうしても納得いかないところがありまして、3 ページの利用者数の計算式があるじゃないですか、この利用者数という言葉が悪いと思うんですけれども、計画交通量掛ける立ち寄り率、単純に数学的に見て計画交通量掛ける立ち寄り率掛ける乗車率掛ける日数で求められるのは年間の来場者数ということでよろしいですか。この式だけ見たら。

道の駅整備課長 ご説明をしている最後にもお話したかと思いますが、算出式は駐車場必要台数を算出する際に用いている指標でございますというふうにお答えしておりますので、算出式自体は原田議員がおっしゃっているとおりかと思います。ただ、それを検証して、実績値を下回っているということですので、今回採用していると。

ただ、今回の資料を全員協議会に提出する際に、ここの利用者数というところをレジ通過者数に変えたほうがいいのかと思ったんですけれども、さすがにそこは基本計画時でも利用者数と表記しておりますので、そこはあくまでも今回はそのままということで資料のほうを提出しております。

原田議員 利用者というとトイレだけの利用者も利用者かなと私は思いますので、言葉として

間違いはないと思いますし、そこはやっぱり、数学なもんですからどうしても納得いかないで確認はしたかったところです。

ですので、結局これで求められるものは来場者だと思うんです。それが実績値と比較して、ほかの3つの道の駅を比較したら実績値よりも下回っているので、本市もこの予測で大丈夫でしょうということだと思って理解しておりますが、そういうことで大丈夫ですかね。

最後、ちょっとこれ、すみません長くなっちゃって。さっきも言ったんですけども、5ページの商圈人口の比較、これやっぱり載せる必要ないかなと思うんです。だって、利用者数を算出するのに何の参考にもなっていない資料なんであれば、載せたら何か変な誤解を与えてしまうと思うので、これは実施設計からホームページに公表しているのか、削除したほうがいいかなと思うんですけれども、そこを削除する考えはありますか。

道の駅整備課長 これはあくまでも参考資料と載せているだけでして、これでもって算出していますよと言っているわけでもないので、削除することはないかと思います。

原田議員 参考資料として載せる意味というか、目的がよく分からないんですよ、僕は。だって、商圈人口の数と道の駅に来る数に相関関係があるんだったら分かりますよ、載せる意味。でも、ないんだったら載せてもただややこしくなるだけなので、載せる必要はないと思うんですけれども、これを載せる意味、目的を教えてください。

議長 ちょっと今日は、実は道の駅の議論というよりは前回の本定例会において様々な議論があって、結局このレジ通過者数にいろいろな各議員の考え方が認識の差があったところで執行部を呼んでいるというところでございますので、その部分をしっかりと議論賜りたいと思います。

花島議員 それを踏まえてですが、4ページの表がありますね、これの本市算出式による予測値というのは、この本市算出式というのは、その前のページの基本計画時の算出法と考えていいんでしょうか。

道の駅整備課長 おっしゃるとおりでございます。

花島議員 それをちゃんと明記しておいたほうがいいです。二重に掛け算しているんじゃないかという疑惑が出るので、本市算出式だけだったのでは何か。言っていること分かりますよね。基本設計時だって算出している、掛ける1.231でやっているんで、そこははっきり分けたほうがいいと思います。回答、どうなっているかは納得しました。

以上です。

議長 大体出そろったと思うので、遠藤議員の。

遠藤議員 いろいろと今議論を聞かせていただきました。ちょっと事前に資料のほうも皆さんのほうに出させていただいていますので、せっくなのでその資料を基にお話をさせていただきたいと思います。恐縮でございますが。

このレジ通過者と来場者数の議論は、もうここ2年、3年ずっとやっております。ずっ

とやっていて、執行部、僕の疑問は前から変わらないんです。まさしく、執行部が今日出していただいた前面交通量、立ち寄り率、それと乗車数、これでもって掛け合わせたものが、出てきたのが77万人というのは、3年前からそうなんです。それというのは、そこではじき出される数字というのは、今くしくも課長もおっしゃったとおり、駐車台数を、必要台数を出すための数字なんですよ、実は。だから、その敷地に入ってくる数字、その敷地に何万人入ってくるかというのを出すのがこの数字なんです。ただ、そこもずっと議論が、ここ数年かみ合わなかったのもので、私は今回3月議会で比較検討表、これはちょっと表にしました。ただ、一般質問ではレジ通過者数の割合というものは皆さんに既にお示しをしているところです。

これ、傍聴者の方もいらっしゃるから若干口頭で言いますと、例えば、私が全国的に調べた、例えば山形県の道の駅むらやまは、敷地に入ってくるお客さん、年間200万人、県内の道の駅から推定したレジ通過者の割合は0.4なんです。4割の人が入ってきて、レジ通過者数は80万人です。200万人の4割だから80万人のレジ通過。そこに単価720円掛けて5.76億円の売上げを目標にしているんです。これは、むらやまのこの計画の6ページ目に載っています。次に、福島県石川町の道の駅は、敷地に入ってくる人数は年間51万人ぐらいなんです。これは根拠も載っておりまして、交通量掛ける立ち寄り率掛ける乗車人数なんです。この方程式から出されるものが51万人。ここはコンサルによるレジ通過者割合を採用して、入ってくる人数の4割がレジを通過するという考えなんで、20万何人がレジを通過して、単価が1,500円のもので、売上げが3億、こういう計算でやっています。これ、石川町道の駅の計画14ページに載っています。そして、また埼玉県このす道の駅の計画は、敷地に入ってくるのは130万人です、年間。レジ通過の割合というのは、地域活性化センターの報告書によって、さっきの1.49を割り返して67%の人がレジを通過して、87万人のレジ通過が、単価1,100円のものを買って9.5億円の売上げを上げる推定値として計算をしています。非常に分かりやすいわけです。敷地に入ってくる人が幾ら、割合は幾ら、レジ通過は何万人というんで、単価で売上げと、そういう計算です。埼玉県道の駅おがわまちに関しては、交通量における試算が56.7万人、年間。潜在需要を基にしたんだと69万人とちょっと幅はありますが、この数字を出した根拠は、やっぱり対面交通量と立ち寄り率と平均乗車人数、これを掛け合わせたのが敷地に入ってくる人数として出されているんです。非常に分かりやすい。その割合は、地域活性化センターの報告書によって67%の人がレジを通過するんで、レジ通過は38から46万人なんで、単価980円買うと3.7から4.5億の売上げになると、こういう計算式です。

そこで、那珂市はどうなのかということだと、3年前から、先ほども答弁あったように、計画交通量と立ち寄り率と乗車率を掛け合わせたものが77.5万人という、3年前からこうこういう計算なんです。これは、石川町の道の駅とか小川町の道の駅で出ているように、同じ方程式、計画交通量と立ち寄り率と乗車率の計算で出てくるのは敷地に入っ

くる客数なんです。ただ、さらにその後、林音ができる、藤森建築家のものがある、4つの増加要因を加味して23%増で今は95万人になっていますけれども、あの立地においては77万人が入ってくるというふうな計算なんです。ただ、那珂市はレジ通過者95万人ということでもありますから、じゃ95万人の人が入ってきて、95万人が買うのかな、ここがずっと疑問だったわけです。

ただ、令和7年6月議会の一般質問の答弁によると、議員が質問の仕方としてはレジ通過が95万人とすれば、総来場者は一体何万人なんだろうという、聞かれたので、執行部としては95万人がレジを通過するんだったら、さっきの活性化センターの1.4倍を加味して133万人が入ってくると推察されるというような答弁だったんです。

しかし、この133万人というのは、根拠が何なんだろうと。いわゆる、敷地に入ってくるところというのは、ほかを見ると、交通量、立ち寄り率、乗車人数を掛け合わせたもので計算をしているところがあるのだけれども、この133万人というのは交通量からの要因ではこうならないんです。これ、あくまでも議員の質問の仕方として、レジ通過が95万人だとすると一体全部で幾ら入ってくるんだろうという質問だったんで。

その次のページを見ていただきますと、これが当時の議員の一般質問でありまして、まさしく、これ会議録ですけども、約95万人はあくまでもレジ通過者かと思いますが。総来場者数は、明らかにこの数字以上が想像されますが、総来場者数の見込み幾らですかと聞いているので、執行部の部長としては、ほかの事例を見ると、レジ通過の約1.4倍程度が総来場者数になると推察されるということで、あくまでもこれはレジ通過が95万だったならば、入ってくるのはこうだよと、思うよという一般論を述べているんじゃないかなと思うんです。

一方、次のページで、ではその前の年、令和6年3月の全協で私がずばっと聞いているんです。ずばっと聞いていますよね。この線を引いてあるところを読むと、今回の基本計画は、あの敷地内に入ってきた73万人、当時の数字で若干違いますが、73万人全ての人がレジを通して、950円の買物をして、年間7億円という売上げの計算なんだということですね。これは、昨年一般質問の答弁でもありましたけれども、入ってきた全員が950円買っての7億円でないと成り立たないという計算で間違いないですかとずばっと聞いているんです。そうしたら、当時の課長が、議員のおっしゃるとおり、立ち寄った方が全員レジ通過というふうにはなっておりますというふうに答弁はいただいているんです。

だから、それを踏まえて、この間の最終日の討論に関して、何だかんだといろんな答弁、お話がありましたが、ここでも今と同じようなことを私、言っているんです。ちょっと薄いですけども、ピンクのラインです。単純に、那珂市の道の駅の敷地には何万人入ってくるという計算なんですか、それだけ言ってください。何万人入ってくる計算なんですかというふうにお聞きをしたところ、部長が、那珂市の道の駅の基本設計において

は、総来場者数とレジ通過者数は同数と見ておりますと、それが95万人でございますとはっきりおっしゃっているんです。だから、前からそういうふうに答弁を僕はもらっているんで、前からそうおっしゃっていますよねというふうなことを言ったんですが、その後、またちょっと何だかんだございましたけれども、最後に部長は訂正をされておりました。訂正の答弁でしたけれども、そこに基本設計時において、レジ通過者数を総来場者数イコールという形で95万人と話しておりましたが、基本設計時においては、レジ通過者数として95万人として算出して、それに基づいて立てておりますというふうにお話をしていますけれども、ここで問題になっているのは、入ってくる総来場者数とレジ通過者数の2つの相関関係が問題なので、訂正をしたと言いましても、レジ通過としては95万人と片方のことしかお話をされていないんです。

最後の僕の見解ですけれども、恐縮ながら、産業部長は訂正の発言をいたしました。しかし、これはレジ通過者数は95万人という片方だけの答弁をくりかえしたものでありまして、総来場者数、いわゆる敷地に入ってくる人数は何人なのかを答えていないです。それを聞こうとしたけれども、ちょっと採決になっちゃいました。

この見解ですが、ここで大切なのは、私は道の駅基本計画が策定された令和5年から一般質問をして、その中で敷地に入ってきた方が全て単価950円の買物をするという想定はいかがなものかとずっと疑問を呈してきました。しかし、その考え方そのものを市執行部から否定されてはおりません。むしろ、令和6年3月の全協で、さっきの資料ね、それで間違いないかとはっきり聞いたところ、おっしゃるとおり、立ち寄った方が全員レジ通過というふうになっていると明確に答弁をいただいていますので、私はずっとそういう認識だったんです。しかし、令和6年6月議会の一般質問において、執行部はこれまでの答弁と明らかに内容を変えました。最も、この議事録を詳細に検討すると、議員の聞き方として、95万人はあくまでもレジ通過と思いますというふうに、95万人をレジ通過だと仮定するということになっているので、その後の部長の答弁はそういう、133万人という一般論を述べたのみでありまして、那珂市の道の駅には133万人が入ってくるんで、95万人がレジ通過とは明確に答えていないんです。実際、この133万人という数字はこのとき初めて聞きました。今までの計画に入っていない数字であります。だから、この数字は根拠ある数字じゃないんじゃないかなと、たまたま95万人がレジ通過と仮定するということによって導き出されたものではないかなと。

やっぱり、どのぐらいの方が道の駅の敷地に入ってくるかを考えるに当たっては、昨今はこの表のとおり、石川町とか小川町のように、交通量と立ち寄り率と乗車人数、この3つの要素を掛け合わせるにより算出をされます。那珂市も実は同様にこの3つの要素を掛け合わせていることから、この方程式より導き出されるのは敷地に入ってくる人数と考えられます。しかし、那珂市はレジ通過者も95万人と言っています。そのため、敷地に入ってくる人数は95万人、レジ通過も95万人、ということは入ってきた全員が買

物をしてくれるのかという疑問につながります。それはあり得ないですね。

ただ、その割合は0.4とか0.7とか、いろんなケース・バイ・ケースで、まさしく標準的な方式はまだないということは理解をしています。ケース・バイ・ケースだが、いずれにしても、全員が買物をするを前提にした計画は見直したほうがいいのではないかなというのが私の考え方です。ゆえに、討論ではそういう発言をしましたし、ほかの議員とのやり取り、行き来がありましたけれども、私としては、これまでの経緯を踏まえて事実を話したものだですよということが私のまずは話でございます。

花島議員 ちょっと、執行部の答弁があるかもしれませんが、その前に、何度も遠藤議員は何人来て、全員が幾ら使うみたいな話をしていました。これ、最初は単なる言い間違いだと思っていたんですが、何度も繰り返していたんで、私、一応理系の人間なんで、その言い方はよくないと思っています。平均としてですよ。だから、執行部もそういうふうに聞き換えて答えていただきたいと思います。全員が幾ら使うなんて意味がないですよ。

議長 執行部から、遠藤議員のを受けて。

産業部長 まず、改めまして、前回の定例会において、私のほうで発言の訂正というような形でいろいろと混乱をお招きしたことについて、改めて謝罪いたします。申し訳ございませんでした。

その上で、レジ通過者数の出し方については、先ほど課長のほうから説明したとおりでございます。また、遠藤議員のほうからお示しいただいた資料の中の道の駅の中で、鴻巣市のものと、あと埼玉県の小川町のものについても、私どものほうでも内容のほうは確認させていただいております。その中で、出し方としては、基本的な考え方としては交通量のほうから両市町ともレジ通過者数のほうを出しているというところで、それに加えて、全体の数の出し方については、トイレとかそういった利用者があるというところで、そこについては地域活性化センターのほうの1.49という指数をベースに数字のほうは出していると、その合算を総来場者数というふうにやっております。先ほど遠藤議員のほうは総来場者数のほうから0.67という形でレジ通過者数を出しているというところでございますけれども、私どものほうの確認した中では、計画としてはあくまで交通量のほうからレジ通過者数のほうを算出しまして、それをベースにした中でトイレ等のその他付帯設備の利用者については指数を用いて算出していると。ですので、結果論からすれば、逆算してきますと見え方としては総来場者数の0.67がレジ通過者という見え方にはなるとおもいますけれども、計画の作り方としてはそういう、レジ通過者数をまず出した上での作りになっているというところで確認しているところでございます。

以上でございます。

遠藤議員 先ほどのちょっと答弁でも、この駐車場の必要台数を出すための係数で計算、方程式を出しているということなんですが、それってというのは、ちょっと教えていただきたい

いんですけれども、この道、何台通っています、そこから立ち寄ります。その車には何人乗っています。こういう要素で何を導き出されるんですか。目の前の車、何台も通っています。大型車、小型車、普通車によって係数は違うけれども、その立ち寄り率が、何割ぐらいが立ち寄ります。車に何人乗っています。この3つの要素で何が導き出されるんですか。僕は、その敷地に入ってくる人数が導き出されると思っているんです。しかも、その人数からどうやってレジ通過の要素がそこに入っているんですか。この3つだけの要素で。教えてください。

道の駅整備課長 私も令和7年の第1回全員協議会的时候、そちらでおっしゃるとおりですということで、言葉が足りなかった部分があるかと思いますが、まず道の駅で対面交通量から敷地に入ってくる人数を、車の台数をカウントしているというところは、ほぼないものと思っております。そういった中で、この立ち寄り率が実際に、先ほどお話ししました、高速道路の設計要領に基づいた駐車マスの算定式だということは間違いございません。ですので、そういった捉われ方をするというのも理解できないわけではないんですけれども、ただ、実際として、既存の道の駅で実際に前面の交通量をはかりながら道の駅に立ち寄ってくる車の台数をカウントしているところはなく、さらに言えば、実際にどれだけの人が来ているのかというのはレジカウント数しかないんです。いろんな市町村の中で、入り込み客数、総来場者数というものをどうやって出すかというところを、1.4の係数を使ったり、2.5という係数を使ったりとかしている状況が今の状況だと思っております。

実際に立ち寄ってくる方のものを、前面の交通量から実際に道の駅に入ってくる人の車の台数をカウントすればこの立ち寄り率というのは恐らくもっと上になってくるんだと思うんです。そこが、幾ら、出ていない以上、この立ち寄り率からレジの通過率というものはなかなか導き出すのは難しいと思っております。ですので、言葉と算出式を見るだけでは、やはり遠藤議員がおっしゃるとおり、またおっしゃるとおりと言ってしまうけれども、遠藤議員の考えのとおり、そのように捉われますけれども、私たちはその立ち寄り率、またその立ち寄り率から出てきた利用者数というものを周りの実績と比較して、それをレジ通過者数として捉えて今回採用しているところですので、そちらについてはご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

遠藤議員 では、もう一回聞きますけれども、単純に、あの敷地に入ってくるのは、那珂市の道の駅は何万人なんですか。

道の駅整備課長 繰り返しのになってしまいますけれども、そちら、私たちが実際に行っているのは需要予測であって、そこの立ち寄り、実際に入ってくる方というものを算出しているわけではございません。繰り返しのになってしまうところは、そこの実際の係数、立ち寄り率というものが出ていない以上、レジ通過者数というものも出てこないものだと思います。ですので、私たちは、もし実際に幾ら入り込み客数があるんだと問われ

た場合には、やはりレジ通過者数に対して1.4倍という係数を使って公表するものだと考えております。

遠藤議員 実際に道の駅ができて、想定以上に売上げが上がって、利益が出て、活性化するんだってばいいんですよ。ただ、未来のことだから、誰もこれがうまくいくとか、駄目になるなんていう保証はできないじゃないですか。できないからこそ、今考える最大の数字を用いて慎重に、これだけ多くの予算が動くんですから、これは適当に考えるようなことはないんだけど、ただ、そういうことじゃなくて、しっかりやっぱり市民にも納得してもらえるような、そういう数字と説明が必要なんだと思うんです。ただ、やっぱりよくよく聞くのは、那珂市の道の駅、寄るは寄るかもしれないけれども、すぐにトイレ休憩だけして行っちゃうんじゃないとか、そういう心配も多いもんだから、それじゃ困るなど。実際に、本当にそれぐらいの売上げを上げられるもんじゃなきゃいけないと思うんだけど、どれぐらいの人が入ってきて、レジ通過して、どれだけの売上げが上がるかがすごく大事なんで、これ、今考え得る最高の図式でやっていただきたいと思うんだけど。

実際、何遍も、例えば当時の常陸大宮市、常陸太田市も事例を参考にしたとおっしゃっていたから、僕も常陸太田市、常陸大宮市、直接聞きましたよ、担当者に。ちょっと違いますよね。皆さんの説明とちょっと違うんだよね。それぞれ、やっぱり常陸太田市は常陸太田市、常陸大宮市は常陸大宮市のやり方があります。ここに出ている常陸大宮市の想定の数値は、これはほぼ僕が聞いた数字です。ただ、それ以外がちょっと違うし、そもそも考え方も違います。どちらとは言わないですけども、ちゃんと入ってきた人、トイレ休憩だけの人という割合も出しているんです、どっちかは。そういうふうなことで、そうすると、今の答弁を聞いていると、常陸大宮市、常陸太田市を参考にしたとおっしゃっても、違うんですよ、出し方が。だから、それはどこまでヒアリングと調査をやられたか分からなくて、僕は担当課にしっかりと確認をして聞いておりましたけれども、本当に常陸太田市、常陸大宮市と同じやり方なんですか、これは。

道の駅整備課長 算出方法は違います。前面交通量を参考にして出しているやり方ということで、同じということは言っていないかと思うんですけども。参考にするというのは、私たちの算出式に、常陸太田市、常陸大宮市の計画交通量を代入して実績値等の比較をしていると。なおかつ、常陸太田市のやり方で出したレジ通過者数、常陸大宮市で出したレジ通過者数を私どものやり方で出したものと比較して、さらに実績値との差を見比べた場合に、私たちのほうがまだ近似値で算出されているというふうにお話しているだけであって。

あと、今、遠藤議員からレジ通過割合を常陸太田市か常陸大宮市が、どちらかが採用してやっているというお話でしたけれども、私ども、その計画を持っていますけれども、そのようなことは一切書いていないかと思います。

以上でございます。

原田議員 さっきお話された入り込み客数、1.4倍という話があると思うんですけども、レジ通過者数95万人で。ここが僕ちょっと疑問に思うところがありまして、市民の方からちょっといただいたものがありまして、市民の方で道の駅整備課に質問された方からちょっといただいたんですけれども、これ文書で質問して文書で回答なのかなと思うんですけども、道の駅整備課から文書で回答が来ているんです。文書だからかなり精査された回答なのかなと思うんですけども、質問内容としては、ちょっと前後の文面がちょっとはっきりあれなんですけれども、全部読ませてもらうと、その前に、いやいや、ちょっと読ませてもらいますね。その前に、ご指摘のような入り込み客数に対するレジ通過者割合を算出することは現実的に困難と述べられているので、入り込み客数に対するレジ通過者割合イコール1として、レジ通過者数77.5万人を求めたということでしょうかという質問に対して、回答が、そのとおりです。ただし、想定利用者数の算出に用いた計画交通量推定は地域振興施設の営業時間を想定し算出しておりますとあるので、この入り込み客数に対するレジ通過者数割合イコール1として求めたんですかという問いに対して、そのとおりですと回答されているんです。ということは、やっぱりこの95万人イコール入り込み客数、総来場者数イコールレジ通過者数という認識なのかなと思うんですけども。だから、1.4倍が総来場者数というのは違うのかなと思うんですけども、いかがですか。

副市長 ありがとうございます。

記述の仕方で誤解を与えたという部分もあるかなというところは反省したいと思います。先ほど来、遠藤議員、それから原田議員からあったように、この計算式自体は東日本道路のほうからの設計要領に基づいた算式ということです。ただ、道の駅の算出方法というのは、先ほどから言っているように、決まったものはないと。では、何を利用するかということで、今度につきましても高速道路の設計要領に基づくものを利用させていただいたと。それは、確かにこの計算式自体はあくまで東日本高速道路ですから、サービスエリアとかに寄る人の算出根拠、駐車場確保のための根拠になるわけなんですけれども。それを利用したときに、それを常陸大宮市とか常陸太田市とか、そういったところを見てみたときに、それがレジの利用者の数を下回る形でその計算式は成り立っているということで、方法はないけれども、これを我々はレジ通過者数として採用しようということで採用しているわけです。それは、先ほど言ったように、この算出方式自体は東日本高速道路の算定数と総利用者数なんだけれども、我々はそれをレジ通過として算出して利用しているんですよ。その根拠は、常陸太田市とか常陸大宮市を見てもこれで成り立つでしょうということで利用させていただいているということです。

実際、先ほど桑澤議員からあったように、総利用者数が何人かというのは、正直言うと我々はどうでもいいのかというところがあります。

先ほど部長のほうからありましたけれども、実際に埼玉県鴻巣市とか小川町とか、それからむらやまもそうですけれども、ここはレジ通過者を最初に出して、その上で1.幾つを掛けて総入場者数というのを言っているだけです。先ほど遠藤議員が言われた中で、最初から総入場者数を出しているのは石川町の道の駅だけです。例えば、鴻巣市なんかは、なぜ総入場者数を算出したかという、地域経済効果を出すために、要するにここに来た人はほかのところでどれだけ買物をするかという効果を出すために、わざわざそこで初めて算出式を出しているということです。我々にとっては、総入場者数ではなくて、あくまでレジ通過を出すための根拠になる数字は何かということに着目してこれを採用しているということでご理解いただければと思います。

以上です。

原田議員 副市長がおっしゃっていることは全部理解しているんですけども、そうじゃなくて、僕がお聞きした質問と回答内容が違うかなと思ひまして、まず記述の誤解があったのかなというところなんですけれども、入り込み客数に対するレジ通過者割合イコール1として求めたということでしょうかという質問に対して、そのとおりですという回答なので、記述に対して誤解も何もないかなというのがまず1点あります。質問としては、1.4倍で133万人が来場者だというところが、僕はそうなんですかということ言いたいです。だって、これだったら入り込み客数とレジ通過者数がイコールじゃないですか、割合1なんで。だったら、さっきの1.4倍の133万人が総来場者数ですというのは違うんじゃないですかということです。総来場者数はどうでもいいというふうにおっしゃっていたので、そうなのかなと思うんで、だったら、総来場者数は95万人で、レジ通過者数も95万人ということじゃないですかと、それはしっかりお示ししていただきたいなと思います。だって1なんですもん、割合。ということはイコールですよ。

道の駅整備課長 先ほど来から原田議員がおっしゃっている回答した文書というところですけども、そちらにつきましては、3月、道の駅を考える有志の会と遠藤議員がいらしゃった場所で誤りですと訂正をしております。

以上でございます。

原田議員 やはり誤りですね。どういうふうに誤っちゃったんですか、これ。どういうふうに間違っちゃったんですか。

議長 原田議員、文書、我々の議会内でちょっと分からないなというところがある意見に対してのそれは。

遠藤議員 まさしく議会内で全協の議事録と本会議の議事録で同じだという答弁、僕もらっているんですよ。それに関してはどうなんですか。

副市長 ありがとうございます。

先ほど言ったように、誤ったというか、誤解を与える言い方をしたというのは確かだと思っております。要するに、この算出方法自体は総来場者数を確かに示すような算出方

法になっているわけです。それは、ただ東日本高速道路の算定方式として総来場者数を出す数式。ただ、我々はそれをもってレジ通過者数として出しますよということで、最初の計画のときからその数字掛ける単価で売上高というのをずっと出してきているわけです。

そういう意味で、総来場者数、式から求められる総来場者数は、結果的に我々のレジ通過者数と一緒にですねという意味で一緒ですという、そのきちんとした説明がなかったというのが我々職員のほうとしても誤りを生み出した原因だと思いますので、そこはちょっと反省したいと思います。ただ、当然、遠藤議員が言うように、総来場者数、レジ通過というのが1人何回やるのかというのは分からないので、実数というのはちょっと正直分からないんですけれども、ほかのそういった活性化センターとか、ほかの例からするとレジ通過の何倍というものが恐らく推測されるだろうということで、推測値としてご答弁申し上げたというのが回答です。すみません。

花島議員 堂々巡りだと思いますよね。正直言って。

ただ、私、執行部に反省してもらいたいし、議員にもよく考えてもらいたいのは、例えば入り込み数って何のこと、それから入場者数って何の数字を言っているのと、それは道の駅の駐車場を含めて入る数なのか、店舗に入る数なのか、さらにレジ通過者数というのがありますよね、その区別がどこかで混乱しているんです。それで答弁とか回答が、それでいいですとか、間違った答えをしちゃうとかあるんで、その辺の識別、厳しく、区別することを頭に置いていただきたいと思います。この件に関しては、全体に執行部の考えを整理していただければ、今回もうそれで終わりにしたいと思う。その整理の内容を見てからまたやり取りしたらいいかなと思うんですが、いかがでしょうか。

小宅議員 遠藤議員がお持ちいただいた敷地に入ってくる客数とか、結局交通量に対して立ち寄り率、乗車率というのはどうとでもなるわけですよね。つまり、主催者発表なんです。この主催者発表で、那珂市もやってみなきゃ分からないところを主催者発表でこのぐらいでしようということで、本当にただの数字遊び的な感じになってきているので、それよりも冷静に考えて、間違いなく、こんなへんぴな道の駅よりも立ち寄る台数は圧倒的に多いですよ、あの立地ですから。そこで、この売上げを出すか出さないかはソフト面のほうが大事なわけであって、ここでこういう議論をしても、これ以上無駄だと私は思うんですけれども。

富山議員 私も小宅議員と同じ考えです。算出方法が確立されていない以上、執行部の考え次第で数字はいかようにでも変わるんです。レジ通過者の95万人という数字や総来場者数も変わります。ですので、近隣と比べて200万人とか300万人を予想しているんだったら、これ問題ですよ。でも、近隣と比べて同等の数字を見ているのであれば、ある程度は信憑性があるのかなと私は感じております。

以上です。

遠藤議員 少なくとも、今回ってこの間の討論の場面からじゃないですか。私としては、私に全協なりいろんな場面でいただいた入ってくる人とレジ通過が一緒だというふうなたびたびの執行部の話を聞いていたので、そういう思いでそういう討論をしているということと、あと昨年のほかの議員の一般質問においては、それがそういう数字、別の数字が、133万人って出ているけれども、それは95万人がレジを通過したと仮定すればということであるから、那珂市の道の駅に一体何万人入ってくるという数字は、いまだかつて、場合によっては、正式に執行部がそうおっしゃるんだったら、示されていないかもしれないわけですね。でも、一緒ですかと僕たびたび聞いて、そのたびごとに一緒ですという答弁をいただいているから、そういう今までの経緯を踏まえた発言をしたまでです。

以上。

桑澤議員 またちょっと確認、最後させてもらってもいいですか。

まず、遠藤議員の資料、最初の資料で、4つの道の駅を上げていただいている中で、遠藤議員が主張したい趣旨に添うのは4つのうちの1つだけで、3つは違うということでしたよね。それでまずよろしいんでしょうか。

道の駅整備課長 私どもが確認したところでは、石川町の道の駅が入り込み客数からのレジ通過者数を割り出しているというところでございます。

桑澤議員 私も、全部の道の駅の資料を読み込みさせていただきました。遠藤議員の主張している敷地に入ってくる数から算出している道の駅は石川町しかなかったです。残りの3つは全てレジ通過者数から算出して1.49倍したものを総来場者数と見込んでいるというのは資料に書いてあります、はっきりと。なので、これに沿って、この資料を不正確なものということは言えるかなと思いますので、この場でこれを同じように扱うのはよろしくないのかなと。唯一使えるのは石川町の道の駅ぐらいなもので、ほぼ、こういった方式を採用している道の駅はまず少ないといったところが現状かなと思います。圧倒的にレジ通過者から算出し、収支計画を立て、総来場者数もそれを見込みとして1.49倍するというのが一般的な手法なのかなというのが確認できます。

さらに、さっきお話があったのであえて申し上げますけれども、私の一般質問のところで、遠藤議員の解釈にどうしてもちょっと私は納得できないんでお話ししますが、私の一般質問、遠藤議員の資料の2ページ目を見てもらえば議事録が載っているかと思いますが、文脈を読んでいただければ分かるとおりに、95万人を仮定でレジ通過者と置いたものでは全くないんです。95万人が計画上のものとしてある、これを、この根拠を確認する意味、何を意味するかという意味でこの質問をさせていただいたというのは文書を読んでいただければ分かるかと思います。その答弁で、執行部のほうは、基本設計における需要予測は、95万人はレジ通過者として試算していますと明確に答えています。さらに、総来場者数についても、他の道の駅の事例を使って、おおよそですが、レジ通過者数の1.4倍程度と推察している。これは当たり前でしか言えない数

字ですので、ここは推察ですが、私が、95万人がレジ通過者というのは、明らかに、たまたま出てきた数字だとか、一般論に過ぎないというようなことで整理されるのは、ちょっとこの議事録の答弁内容とは違うかなと、これは皆さん読んでいただければ分かるかなと。ほとんど、そういう解釈をするほうが、ちょっと無理があるのかなと思いますので。大事なことは、133万人というのは確定的な数字ではないということです。かといって、根拠のない偶然の数字でもないわけです。なので、95万人がレジ通過者数であって、総来場者数とイコールでないということは、今の執行部の説明、あるいは私の一般質問の回答で一貫して確認されていることですので、そこは皆さん、しっかりとこの部分に関しては確認いただければいいかなと思います。

以上です。

遠藤議員 では、やっぱり何で執行部は一緒だというふうな、誤解を招くような表現という言い方をされていますが、誤解を招きようがないですよ、答えとして一緒だと言っているんだから。これは、誤解の招きようじゃなくて、執行部の当時の見解ですよ。だって、これ会議録でこれ違いましたって、それはちょっといかがなものなんですか。今、議論をしていますけれども、当時から過去のフレーズは変わっていないんです。そうしたら、それをそのまま受け取るじゃないですか、議会としては。それ、やっぱり、今、違いましたって言うんですか。市長、どうですか、そこらって。市長。

副市長 すみません。先ほど言ったように、誤解を招いたというのは、そのとおりだと思いますので、花島議員が言われたように、使い方、そこはきちっとした形で対応していきたいというふうに思っています。

遠藤議員 違いますよ。議員がおっしゃるとおり、立ち寄った方が全員レジ通過というふうになっておりますというふうに全協でおっしゃられて、なおかつ、この間もこれそういう答弁が出てきちゃっているということは、執行部の中でも統一された見解が確立されていないんじゃないかというふうに推察をされますが、いかがなんですか。

道の駅整備課長 当時、私が、議員がおっしゃるとおりといった部分でございまして、そちらにつきましては、計算式がということでありまして、必ずしも来場者数イコールレジ通過者数という計算式が議員がおっしゃるとおりとそうなっていますということであって、そのところで誤解を招くような言い方になってしまったということに関してはお詫びを申し上げたいと思います。

遠藤議員 だって、僕はずばっと聞いているんです。議事録を見ると分かりますとおり、ずばっと、それで間違いないですねと、入ってきた全員がそれ買っただけ、そうでないと何も組んでないと、成り立たないという計算で間違いないですかと、間違いないですかとずばっと聞いていて、おっしゃるとおり、立ち寄った方が全員レジ通過というふうになっていますとずばっと答えてもらっているから、これはちょっと誤解のありようがない。これは違いますと言われれば、僕どう今までの会議録を読めばいいかちょっと理解に苦しみま

すが、副市長、やっぱりそういうことなんですよ。

副市長 申し訳ありません。

普通に考えて、入ってきた方が全員レジというのは当然あり得ない話でございます。それを同じですというふうに答えてしまったということは、そこは確かに明確な誤りになるのかなと思います。考え方として、我々は総来場者数というのはそもそも想定していないというのが、この道の駅の中では、算定式もそういうふうに使っているという認識でしかいなかったというところに非常に問題があったかなと思います。

改めて、そこら辺についてはしっかりと今回訂正させていただいた上で、今後、議員の皆様方にもそういった理解で対応していただければなと思います。我々のほうも、使い方として、きちんとそこを整理した上で説明していくようにしたいと思います。大変申し訳ありませんでした。

遠藤議員 では、もう総来場者数、いわゆる敷地に入ってくる人数はもう考えていないということが今明らかになりました。今回の那珂市の道の駅の予定で、あの敷地に入ってくる人数は分からないというのがもう結論ですね。ただし、レジ通過は何万人だという、そういうところで採用しているということで、ただその採用の仕方がいかどうか、これはまた議論の余地があると思いますけれども、そこらのところで今日はちょっと、分かりました。総来場者数に根拠のある数字はないけれども、レジ通過としてそれを採用しているということだと思いますが、それは本当にそれでいいのかどうかはまだまだ議論の余地があるんであろうというふうに思います。

以上です。

議長 よろしいでしょうか。

渡邊議員 今いろいろと議論があったと思うんですけれども、冒頭に小宅議員がきちんとした根拠を示してくれという話をしたと思うんです。もしそれが、この執行部が出した数字が誤りなのであれば、違う考え方をもって正当な根拠、みんなが理解できるような、納得できるような根拠を示すべきだと私も思いますんで、議論ではなくて、むしろ遠藤議員のほうからきちんとは間違っている、本当はこういう、学説があればこういう式がある、もしくは研究者の方々とか、いろんな数字、データがあるんだったら出してもらって、今回お示しいただいた資料は確かに4つの道の駅があります。これ、多分統計学的にはデータ数が少ないと思うんです、原田議員の言葉を借りれば。だったら、もっときちんとデータをそろえていただいて、我々が納得できるような説明をしていただければと思うんです。結局、分からないで話を聞いていたんで、そこをお願いしたいと思います。

議長 というより、今回はやはり定例会で議事になったそれぞれの見解が全く違うというところからの出発点なので、執行部をお呼びして、執行部のちゃんとした見解を伺わなければ議論が進まないというところから始まったものですから、それに基づいて、我々が根

拠が、データがどうという場では、ちょっとここではないところでもあります、結論としては、執行部が本当に初めから、最初からちょっとこの言葉が、立ち寄り率とか計算の言葉でやっぱり各議員理解に差が生じるようなのが始まりだったのかなというのは、これは正直思いました。今回も、聞いていても議論が多分そういったところになるのかなと思いますので、初めから、今回副市長が言ったところをしっかりと説明していただければ、このような紛糾はなかったのかなと私は思いますので、この辺でこの案件についてはよろしいですか。

桑澤議員 いいんですけれども、議論の前提を今日はそろえるところが目的だと思うんです。

議長 それを、今回、副市長から答弁をいただいたので、あれで。

桑澤議員 皆さんがそれでいいというのをちゃんと確認したほうがいいんじゃないですか。

議長 では、よろしいでしょうか。

先ほどの副市長の答弁が細かい、初めからある総来場者数やレジ通過者数の話、ありましたよね。東日本のデータを使って95万人して、それをレジ通過者数としたと。

(複数の発言あり)

議長 そこが微妙で、そこは微妙なところかな。1.4というのは、そもそも。

桑澤議員 それ、議長、意味ないですよ。申し訳ないけれども。

今日やっている話は、そこを整理する話で、これここでもう終わっちゃったら、またやりますよ、これ。今日、昼超えてでもやる話ですよ。だから、そこをちゃんと、結論を今日決めなきゃ駄目ですよ。

議長 俺が決めるのではなくて、ちゃんと執行部の見解を。

桑澤議員 終わろうとされているから。ちゃんと統一見解を取りましょうよ。

議長 統一見解を。副市長、先ほどの、いただきたいです、答弁を。

副市長 統一見解というのは、議員の皆さんの統一見解ということでよろしいんでしょうか。

議長 というより、執行部のやっぱり見解というか、初めの入り口から違うもんですから、先ほど答弁されたことをいま一度いただきたいと思います。

副市長 分かりました。

そもそものレジ通過の考え方ですけれども、最初から言うておりますように、道の駅の来場者数、あるいはレジ通過者数という明確な算定方式というのは確立されていないという中で、どういったものが合意性があるかというのをそれぞれの道の駅で考えているところだと思います。一般的に多いのは交通量からの算定方式、それもやはり東日本高速道路が用いている設計要領をベースにしながらやっている例が多いということでございます。それは、先ほど言いましたように、当然サービスエリアとかの駐車マスの確保のための設計要領なんですけれども、ひいては、それが来場者数ということになってくるんだと思いますけれども、それをを用いて算定したものが近隣の常陸大宮市とか常陸太田市とかで考えますと、レジ通過者数を下回るような数字になってくる。逆に言う

と、それを使えばレジ通過者数が確保できる数字だろうというふうに、我々は合理的な理由があるというふうに考えて採用したということで、それを算定方式は、先ほど言ったように、総入場者の数になるのかもしれませんが、我々、道の駅としてはレジ通過者数として算定しましたということです。

総来場者数、これはほかの道の駅も分かりませんという回答が多いです。常陸大宮市なんかも、何かも分かりませんと、総来場者数というのは報告書に載っております。ただ、先ほど言ったように、活性化センターなりが出した、この算定方式も非常に大まかで個人的な疑問はありますけれども、そういったものを参考にするとそのレジ通過の1.4倍程度が総入場者数と推定しているということで考えております。

我々執行部側の扱いとしては、今後きちんとその取扱いを踏まえて対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長 これが執行部の見解です。

ただ、以前の様々なところで議員間の差が、考え方の差があったのは、これは否めないと。

(複数の発言あり)

議長 だから、議員の統一見解とかじゃなくて、執行部の見解がこれで確定したということでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

議長 ただ、それはその後、今の見解をもって様々なことを議員間で考えていただければということです。

(複数の発言あり)

議長 そういう、イコール。

(複数の発言あり)

花島議員 副市長が説明したとおり、東日本高速道路会社の計算はこうでしたと、こういうやり方をしていました。でも、我々がやっているのは高速道路のサービスエリアじゃないですよ。その数字とほかの道の駅の数字の出方を比べたときに、だから、それだけの話なんですよ。だけれども、あらかじめ高速道路のサービスエリアの計算式を使ったものだから、職員の間にしろ、議員の間にしろ、入場者数とレジ通過者数、それから入り込み数とか、一体何のことを指しているのかが混乱しているんです。それで、答弁の間違いがあったり、質問の仕方もしょうもないことを聞いたりしているんだと私は思う。だから、既に言ったことですが、副市長もちゃんと答弁していただきましたけれども、何の数字なのかというのをちゃんと峻別するような表現なり何なりを今後してもらえばいいと思います。その結果の数字に対してとかにおかしいという話があれば、それはいろんな場で議論したらいいと思うんです。この場としては、執行部がこう答えなければ

も、こういうことなんだなということだけ確認すればいいと思います、私は。だから、あと道の駅の是非とか、そういうものについては別途、その数字の根拠も含めてですが、議論したらいいと思うんですが、これはこれで終わったらいいと思います。

議長 執行部の見解は。

市長 大変、説明が足りない部分なんかもあったりして、ご迷惑をかけたかもしれません。先ほど副市長が申したことを基本にこれから進めてまいりたいと思いますので、ご理解賜りますようよろしくお願いします。

遠藤議員 では、今日の場合は執行部の答弁はそういうことでお聞きはしましたということですが、それについて、いろいろとまだ議論の余地は僕はあると思っているんです。だから、それを、今日の今の内容を全議員が了承したというわけではないと思うので、ただ、時間に限りがあるから、これはこれでまだ議論をすればいいと思う。だって、今駐車場のマス数の計算の数値を出しているということは、そこにどうしてレジ通過の要素が入るんですかという感じだから。だから、そういうことですよ。議論はまだ進めればいいと思います。

議長 その件については、また議論は続けていただくかどうか、それはいいんですけども、今回の件は執行部側のしっかりとした見解が聞けたと、理解ができたと思います。

以上でよろしいでしょうか。

原田議員 僕が納得いかないのは、さっきのイコール1というのが間違っていたというところなんです。でも、そこは後で執行部の方に僕、どういうふうに間違ったのかなと聞きたい。だから、総来場者数の部分だけ僕はちょっと納得がいけないなとは思っております。

小宅議員 産業建設常任委員会で視察に行った道の駅で説明を受けたとき、年間来場者数75万人という説明を受けました。そのときに、それは来場者ですかと聞いたら、レジ通過者ですというあれだったんです。だから、結局来場者をはかるのにはそもそもレジ通過者だったんです。だけれども、それが、95万人が1人1,000円ずつ買うのかどうか、わけ分からないことが始まっちゃったから総人数という話になっていっちゃったわけで、当初は総来場者数とレジ通過者数というのは同じ認識でいたということは、これは仕方がないというか、誤った答弁とは言えないと私は思うんです。

以上です。

議長 だから、言葉一つの話になってくるので、もうちょっと。ただ、今回は先ほど副市長が言ったのが執行部の見解ということでご理解賜りたいと思います。

それでは、このレジ通過者数については終わりにしますが、非公表値がありますので、十分配慮して、なくしちゃいますので、公表しないようにお願いします。

暫時休憩いたします。執行部、続けていいですか、このまま。総務課に悪いですが、入替えをお願いします。ちょっとトイレしますか、5分休憩。再開を12時15分にします。

休憩（午後0時10分）

再開（午後0時15分）

議長 再開をいたします。

続きまして、住民投票条例制定の直接請求と今後のスケジュールについてを執行部より説明をお願いしたいと思います。

総務課長 総務課長の石井です。ほか2名が出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、着座にて失礼いたします。

全員協議会資料、住民投票条例制定の直接請求と今後のスケジュールについてをご覧ください。

那珂市複合型交流拠点道の駅推進事業の賛否を問う住民投票条例制定の直接請求の手続が開始されたことに関し、既にラインワークスでお知らせしている部分もございますが、改めて制度及び請求の概要並びに今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

まず、1の制度の概要でございます。

地方自治法第74条の規定により、当該地方公共団体の有権者、選挙人名簿に登録された者になりますけれども、その50分の1以上の署名をもって条例の制定、または改正、廃止を請求することができることとなっております。

当該請求が有効な場合は、市長は住民から提出された条例案に意見を付し議会に付議することとされており、議会が可決し条例が制定された場合、住民投票が実施されることになります。

なお、投票結果に拘束力はなく、市長及び議会はその結果を尊重しなければならないとされております。

この内容につきましては、下の参考にあります那珂市協働のまちづくり推進基本条例第18条に規定されているところでございます。

続きまして、2の請求の概要になります。

請求件名は、那珂市複合型交流拠点道の駅推進事業の賛否を問う住民投票条例制定請求になります。

条例制定請求代表者は、記載にある3名となり、本年4月1日に請求代表者証明書交付の申請があり、4月8日に請求代表者証明書を交付しております。

直接請求に必要な法定署名数は、さきに制度の概要でもご説明させていただいておりますけれども、地方自治法第74条第1項の規定により、市条例の制定または改廃の請求に必要な署名の数は、本市の選挙権を有する者の総数の50分の1の数となっており、現状では904人になりますけれども、選挙人名簿登録者総数の増減により、必要な署名数は変わる場合がございます。

次のページにお移りください。

続きまして、3の今後のスケジュールになります。

4月9日から署名収集が開始されており、5月8日までが署名簿収集期間となっております。その後、署名簿の提出時期等によってスケジュールは変動しますが、法定署名数904人以上の有効な署名があると判断された場合には、本請求を提出していただきます。提出日は、6月11日から15日頃を想定しております。その後、この本請求受理の翌日から20日以内に議会が招集されることとなります。この議会の招集初日は、6月19日から7月3日頃を想定しており、ここで条例案が審議されることとなります。その条例案の制定が可決された場合には、施行の日から起算して90日以内に住民投票を実施することになります。

なお、条例施行日は可決日となります。

その後の3ページ、4ページにつきましては、参考になりますが、市の条例制定請求書の提出書類と、その際の条例案のほうが記載されております。お読み取りいただければと思います。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

議長 執行部の説明が終わりました。

ご意見、ご質疑ございますでしょうか。

花島議員 質問です。これは有権者だけが有効な署名ですよね。それで、そもそも有権者が有権者である日付というのはどこが基準になっているんでしょうか。つまり、選挙のとき、例えば4月1日に署名を始めたいと申請があったわけですよね、そのときに有権者であればオーケーだと思うんですが、その後、例えば4月何十日かで有権者になる方、若い方がいるんで、その切り替わりの基準というのはいつになるんでしょうか。

総務課長 答えさせていただきます。

先ほど904人ということで、まず有効な数をお示しさせていただいたかと思うんですけれども、こちらが選挙人名簿登録者数の増減によるということで、登録者総数が増減になる可能性があるとお話させていただきました。こちら、3か月に1度定時登録というものをしておりますので、そちら、続いていけば6月1日にまた定時登録をしたりしますので、その時点で有権者であればということになります。

すみません。審査の終了日のときの最新のものになりますので、今で言いますと、審査の終了日というのが、想定では、今後のスケジュールのほうのちょっと予定を見ていただければと思うんですけれども、署名簿審査、上から3段目、5月14日から6月2日頃となっております。これは、署名簿の提出によって日付が変わってきてしまいますので、このときに、例えば最後の6月1日とか2日とか、そういったときまで審査が終わってなくて、そこで審査が終わるとなれば、6月1日付の選挙人名簿のほうの有権者のものとなります。

以上でございます。

花島議員 分かりました。

渡邊議員 ちょっと確認させていただきたいんですけども、住民投票、実施されとなりますと今後予算のほうは、補正予算なり何なりで上がってくるのかなと思うんですけども、概算で結構ですが、住民投票に要する費用ってどのぐらいかかるのかちょっと教えてもらっていいですか。

総務課長 お答えさせていただきます。

今回の住民投票条例につきましては、市の単独で行うなる選挙に準拠して行われると想定しております。ただし、そちらの中でも必ず選挙でのポスターの費用ですとか道具とか、そういったものの費用というのが今回は使わないということになりますので、そういったものを引きますと、概算ですと1,700万円から800万円の間ぐらいになるかなと想定しているところでございます。

以上でございます。

議長 そのほか、ございますか。

(なし)

議長 ないようですね。

ないようですので、質疑を終結いたします。

暫時休憩をいたします。

執行部は退席をお願いいたします。ご苦労さまでした。

休憩（午後0時24分）

再開（午後0時24分）

議長 再開いたします。

続きまして、その他になります。

事務局からお願いいたします。

次長補佐 今、配信をいたしますので、少々お待ちください。

那珂市議会の所属表をご覧ください。

上から3段目、付属機関、那珂市総合開発審議会の委員の選出が漏れているのが3月時点で分かりまして、4月16日に常任委員長会議を開催し、慣例どおり、副議長、総務生活常任委員長、産業建設常任委員長、教育厚生常任委員長の3常任委員長の4名を選出しましたので、ご報告させていただきます。

説明は以上になります。

議長 質疑ありますか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

議長 この件につきましては、この表のとおりで決定をいたします。

以上で全ての議事が終了いたしました。

これにて全員協議会を終了いたします。

お疲れさまでした。

閉会（午後0時26分）

令和8年6月18日

那珂市議会 議長 大和田 和男